

研究会の視点

- 「本時の学びどころ」について
 - ・子どもの実際の姿から、座席表による見取り・分析は適切であったか
 - ・本時目標の実現に向けて、特に重要と考えられる子どもの期待する姿、および、そこに迫るための「本時のしかけ」が分析されていたか
また、妥当であったか。
- 単元構想について
 - ・子どもが学習課題（単元を通して追究する目的や問題）を捉えていたか
また、その解決・実現に向けて見通しをもったり考えようとしていたりしていたか
 - ・探究的な学び・体験的な学びの繰り返しが期待できる単元構想になっているか

4・5組（大西・高橋級） 「フラでえがおをとどけよう！」

【担任の意図】

↑先生のフラの映像を見たり、自分たちのフラを映像で振り返って気付いたりしたことを友達と伝え合う中で、一人ひとりが自分の課題だと思ふ動きをどのように踊ればよいかを考えられるようにする。

【授業の様子】

2グループどちらのグループもお互いに見合っ感想やアドバイスを伝え合いながら、それぞれのめあてを意識して活動できた。今後、発表の場を適切に設定すること、フラで伝えたいことを子どもたちが見失わないように展開することの重要性が明確になった。



2年1組（川合級） 「とべまち たいようたんけんたい」

【担任の意図】

戸部大通り商店街探検をして見付けた良さを店ごとにまとめる。その中で、店の方に聞いてきた発言を取り上げ、「聞くと、分からなかったことが分かる。」「聞くっていいな。」という思いをもてるようにする。

【授業の様子】

店の方に「店で使っている道具」を借りてきて、道具を使って店の工夫を説明する子どももいた。しかし、話が一方通行になってしまった。これから お互いに深め合えるようにしたい。



2年2組（小野田級） 「かもん山 キラキラ たんけんたい」

【担任の意図】

掃部山公園の探検を通して体験的に気付いたキラキラ（素敵なところ）を話し合う活動を通して、掃部山公園を気持ちよく利用するために自分たちができることを考える。

【授業の様子】

掃部山公園のキラキラ（素敵なところ）を話し合う中で、自分たちができることに気付いた。一方、「自分たちがやりたいこと」と「自分たちができること」にズレが生じている。子どもの考えを整理し、これからの活動に見通しもたせたい。



3年1組（武藤級） 「昭和の戸部にタイムスリップ！」

【担任の意図】

展示館やふれあい館の魅力を話し合うことを通して、自分が気付いていなかった昔の道具や資料のおもしろさ、展示館やふれあい館そのもののすばらしさを感じる。また、それを残してきた人々がいるということに気付く。

【授業の様子】

展示館やふれあい館の魅力をたくさん感じていた。自分が感じたことや疑問に思ったことを意欲的に話していた。一方、人に視点をもっていくのはまだ早い面もあった。これからさらに展示館やふれあい館にたくさん浸ってから、そこに込められている人々の生活や思いを考えていけるようにしたい。



5年2組（小川級） 「とべまちPRムービー」

【担任の意図】

2つの動画のメリットとデメリットを分析した結果をもとに、それぞれのメリットを生かすことができるかどうかをサンプル動画を題材にして分析することで、動画という表現方法の特性を踏まえた上で自分たちがこれから作っていくべき動画の方向性について根拠をもって考えることができる。

【授業の様子】

子どもたちがストーリーで伝える動画か、まんべんなく人やもの・ことを伝える動画のどちらが自分たちのこれから作成していくべきものにふさわしいかを話し合うなかで、その両方を生かした動画を作ることができないかを話し合った。現在の段階で、伝えたいことが確実に絞り切れていない中での話し合いでは、実際の動画のタイプを決めることは難しかった。さらにまちの情報収集が充実した状態で、再度決定する話し合いを行うという方向性が見えた。



講師の先生から

＜渋谷先生＞

- 高まっていくためには、振り返って、表現することが大切。
- 特別支援における、「個に応じた支援」…特別支援だけでなく一人ひとりに合わせる意識
- 生活科は、たんけんインプット、授業でアウトプットのイメージ。
- 構造的な板書の研究の必要性。
- 総合では、色々な視点があるという気づきが、価値のある学習。

＜大内先生＞

- 授業は「読み」。こう言ったら、だれがこう言う、というのを100%読めるように鍛える。そのために、略案を作って、子どものやり取りを想定する。子どもの活動が、しっかり見とれていないとできない。
- 生活科のまちたんけんは、年間通して、扱うものを変えながらできる。活動の軸に置く価値がある。